

普及活動情勢報告（令和3年8月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

もっと知りたい！もっと学びたい！ ～ニラ青壮年部現地検討会～



現地検討会の様子

7月26日、JA高知県四万十ニラ青壮年部の生産者を対象に現地検討会を開催し、11名の参加がありました。

普及所からは、ネギアザミウマ対策の実証ほ場の状況や、今年度の他の実証試験の計画を説明しました。

生産者からは、「資材のコストは？」「効果は有りそうか？」等ネギアザミウマ対策の実証ほ場に期待する声がありました。

今後も普及所は、若い生産者の多いニラ青壮年部に対して、JAと協力して、様々なテーマで勉強会を開催していきます。

根こぶ病を根絶しよう ～なばな栽培講習会～



講習会の様子

8月12日、JA高知県十和支所のなばな生産者を対象に栽培講習会を開催し、37名の参加がありました。

普及所からは昨年の薬剤試験結果を基に、土壌処理剤の必要性や使用方法について説明をし、根こぶ病に困っている生産者からは「今年はぜひ使ってみたい」との声がありました。

普及所は防除効果を高めるための土壌処理剤の継続的な使用を推進していくとともに、耕種的防除、物理的防除を組合せ、なばなの安定生産のため根こぶ病の根絶に取り組みます。

農薬散布用ドローンの効果的な利用に向けて ～ 散布精度の比較試験 ～



農薬散布用ドローン飛行の様子

8月2日、普及所は農薬散布用ドローン利用者連絡会の関係機関とともに四万十町内の水稲ほ場で農薬散布用ドローンによる散布精度の比較試験を行いました。

農薬散布用ドローンは無人ヘリに比べ、ダウンウォッシュが小さく散布精度が低いことが懸念されています。そこで薬液の代わりに水を散布し、株元と穂先の高さに設置した感水紙の濡れ具合を比較しました。感水紙の詳しい解析結果はまだ出ていませんが、目視では農薬散布用ドローンも無人ヘリと遜色なく株元まで水がかかった様子でした。

普及所では今後も関係機関と連携し、農薬散布用ドローンの効果的な利用と、安全な運用に向けて取り組んでいきます。

集落営農法人の収益向上に向けたエダマメの省力化技術の検討 ～抑草対策実証ほ～



収穫中のエダマメ

8月10日、普及所はエダマメの抑草対策実証ほの収量調査を行いました。

管内の集落営農法人が約1.3haのエダマメを栽培していますが、収益向上には、雑草管理の省力化の課題があります。

そこで、普及所は課題解決に向けて、4月に麦を活用したリビングマルチの抑草対策の実証ほを設置しました。

抑草効果が追いつかず、収穫までに除草作業が必要なほ場もあり、前作までの雑草管理の違い等が影響していると考えられました。

今後は調査結果を取りまとめて法人へフィードバックし、次作に向けて改善策を検討します。

新規就農者基礎研修 ～農薬の安全使用・適正使用について～



講習会の様子

7月13日、普及所は新規就農者を対象に農薬の使用方法について講習会を行いました。

当日は9名の参加があり、農薬の定義、農薬の剤型、剤型ごとの特徴、展着剤の効果、農薬ラベルの見方、使用上や保管する上での注意点等の説明を行い、参加者からは「動噴内の洗浄はどうしたらよいか」、「残った農薬の処分はどうしたらよいか」、「展着剤の混用のデモンストレーションを見て効果を実感できた」等の意見がありました。

新規就農者基礎研修は今年度①病虫害②農業経営③土作りをテーマに残り3回を予定しています。

地域で暮らし稼げる農業を支援 ～第1回高南地区農業改良普及推進協議会～



協議会の様子

7月29日、JA高知県四万十農協会館で高南地区農業改良普及推進協議会を、外部委員10名の参加のもと開催しました。

普及所からは、今年度の普及推進方針と普及活動計画について説明した後、管内での農福連携の推進、散布用ドローンの現状、基盤整備事業について情報を提供し、意見交換を行いました。

委員からは、「労働力の確保の取組はどのようにしているのか」「地区でドローン導入の要望があるが説明会の予定はあるのか」などの声があり、普及所からの説明に普及活動への理解を深めた様子でした。

普及所は、いただいた意見等を今後の活動に活かし、関係機関と連携しながら課題解決に取り組みます。